

7月7日は乾しいたけの日 キャンペーン

「7月7日は乾しいたけの日・^{ほし}そうめんの日」キャンペーンが、銀座数寄屋橋公園において行われました。古来から日本の食文化に貢献してきた「乾しいたけ」と「^{すきやばし}そうめん」という二つの食材が協力。そのおいしさを広く知ってもらおうと、街ゆく人には、サンプルが配布されました。また、乾しいたけの産地からは「めじろん」、「くまモン」、「そばっち」が応援に駆けつけてくれました。

乾しいたけは、古来から日本の食文化や山村社会の形成に貢献してきた大切な食材です。しかし近年、国内生産量は昭和50年代をピークに下降しており、家庭における年間購入量の減少や市場価格の下落など、厳しい状況になっています。加えて、一昨年の原子力発電所事故以降は、一部の市町村において原料である原木生しいたけや乾しいたけに出荷制限等が措置されており、このような状況が長く続けば、乾しいたけ産地の衰退、ひいては我が国の食文化と、原木を循環利用してきた森林づくりの仕組みに大きな影響を及ぼすこととなります。

このような中で、乾しいたけの生産・流通関係者を中心とする「日本産・原木乾しいたけをすすめる会」は、本年から7月7日を「乾しいたけの日」に制定し、おいしさや栄養豊富であることなどを広く消費者の方に知っていただき、消費拡大につなげようと様々な取組を行っており、林野庁もこうした取組を後押ししています。

その取組のひとつとして、6月13日には都内小学校において、食育と将来的な消費拡大を図るため、「森の恵み『きのこ』」についての出張授業が行われました。その日の給食では乾しいたけをふんだんに使ったスパゲティが児童に提供されましたが、日頃きのこが苦手な児童も「おいしい」と残さず食べていました。

7月7日には、同じく7月7日を「^{ほし}そうめんの日」とする全国乾麺協同組合連合会との協力で、銀座数寄屋橋公園において、^{すきやばし}そうめんと乾しいたけのサンプルや乾しいたけをおいしく食べるレシピ等の配布(約2,000セット)が行われたほか、乾しいたけの産地から「めじろん(大分県)」、「くまモン(熊本県)」、「そばっち(岩手県)」も応援に駆けつけ、乾しいたけの新たなキャラクター「乾しいたけ貴婦人」と一緒に、栄養豊富で旨味がたっぷりな乾しいたけをもっと家庭料理でも使ってほしいとPRしました。

そのほか、愛媛県、大分県等においても、中央行事と時期をあわせて乾しいたけの消費拡大キャンペーンが実施されました。



乾しいたけがたっぷり入った給食(葛飾区立北野小学校)



乾しいたけキャンペーンに2,000人



乾しいたけ応援団と乾しいたけ貴婦人



同日に行われた大分県でのキャンペーン

もりりん(大分県)